

宇電懇ニュース

宇宙電波懇談会事務局 発行

(宇都宮大学教育学部物理)

目次

1. 宇電懇1984年度年次総会
2. 運営委員長あいさつ
3. 運営委員会活動報告
4. 事務局からの連絡(会費の納入、その他)

1. 宇電懇1984年度年次総会

1984年 5月25日(金) 於 天文学会春季年会A会場

- 議 事:
1. 第7期(昭和57・58年度)活動報告
 2. 第7期(昭和57・58年度)会計報告
 3. 第8期運営委員選挙の報告および承認
 4. 次期事務局の選出
 5. 本年度の活動、その他

1. 第7期の活動について

- ・ 総 会 1983年 5月18日、1984年 5月25日
- ・ 運営委員会 1982年 6月10日、1983年 6月18日、1983年12月 9日
- ・ 野辺山宇宙電波観測所の共同利用委員(台外委員)の推薦
1983年12月 9日の運営委員会の決定に基づいて、運営委員を選挙権者とする選挙を行
い、東京天文台に6名を推薦した。
- ・ 主催または後援したシンポジウム、小研究会
「45-m望遠鏡による系外銀河の観測」・(1983年 2月14日-16日)

「星間分子研究会」・・・・・・（1983年 2月21日－22日）

「暗黒星雲における星の生成」・・・・（1983年 9月）

「電波観測における現状と今後の展望」（1983年12月 8日－ 9日）

・関連したシンポジウム

「NROユーザーズミーティング」・・（1983年 6月）

その他、NRO主催の中・小研究会多数。

・宇電懇ニュースの発行

第60号（1982年 8月19日） 第61号（1982年11月20日） 第62号（1983年 8月10日）

第63号（1983年11月15日） 第64号（1984年 4月27日）

・会員名簿の改訂

現在、準備中（注、7月に発行）

・「井口基金」の支給

1982年度上半期分、18万円を鈴木博子氏に支給。

1982年度下半期、1983年度は公募するも応募者なし。

2. 第7期会計報告

収 入		支 出	
前期より繰越	10,577 円	印 刷 費	
		（ニュースNo.60-64）	85,000 円
		（ 名 簿 ）	34,000
会 費（現金）	54,000	郵 送 費	77,228
（振込）	285,350	文 房 具	10,692
		郵便振替口座開設費	50
計	349,927 円	計	206,968 円
		残 高	142,959 円

注、この会計報告は、総会後の名簿作成費と若干の会費収入を含んだ最終的なもので、
会計のメは1984年 8月16日である。

第7期の活動報告、および会計報告はともに承認された。やりのこしの仕事である会員名簿の作成は、第7期事務局が行うこととなった。なお、その間、会計も第7期とする。

3. 第8期運営委員の選挙について

夫春中田 員委員答

5月20日に第7期運営委員の石黒正人氏立会いのもとで開票した結果、以下のようになった。本来の委員定数は10名であるが、今回は9位の同点者が3名となったので、11名を運営委員当選者とする事で第8期運営委員が承認された。

投票総数：69票（うち白票1票）

運営委員長：当 田中 春夫 25票

運営委員：当 田原 博人 37票

海部 宣男 32

森本 雅樹 29

田中 春夫 28

鯨目 信三 23

藤本 光昭 23

赤羽 賢司 18

甲斐 敬造 16

小川 英夫 14

福井 康雄 14

小杉 健郎 14

次 土佐 誠 12

（以下 省略）

4. 第8期事務局の選出

第8期事務局は宇都宮大学教育学部（田原・加藤両氏）が担当することとなった。

5. 本年度の活動、その他

野辺山宇宙電波観測所の現状、「太陽電波写真儀計画」、IAU Regional Meeting および電波関係の野辺山 Meeting、などの報告がなされた。また IAU シンポジウム No.115 'Star Forming Regions' が1985年11月12日に開催されることになった旨報告された。

今年度の、宇電懇シンポジウムなどについては、6月のNROユーザーズミーティングの際に運営委員会を開いて討議決定をすることとなった。

2. ごあいさつ

宇都宮大学宇宙電波観測所

運営委員長 田中春夫

このたびは思いがけなくもう一期運営委員長をお引き受けすることになりましたが、宇都宮大学の新事務局と共に、大役を果たしてゆきたいと思っています。

宇電懇は当初電波天文懇談会として発足しましたが、大型電波望遠鏡の建設を推進するという大目標を明確にするため、すぐに宇宙電波懇談会と名称が変わりました。しかし、電波天文研究者が挙げてこの計画を推すということで、実質的には電波天文研究者全体のグループであるわけです。

発足後間もなく15年になりますが、野辺山宇宙電波観測所が漸く軌道に乗り、当初の大目標がほぼ満足すべき状態で達成されたことはご同慶の至りであります。しかし、それと同時に、宇電懇は新しく脱皮する時期を迎えたわけで、この際新しい活動方針を打ち立ててゆかなければなりません。一口で言えば、長期的な、また広い視野に立った電波天文の将来の方向について絶えず考えてゆくということになるのではないかと思います。特に周辺分野とのインターフェースが益々重要になってゆくと考えられます。

この宇電懇のあり方について、何らかの形で意見を集約することをまずやるべきではないかと考えています。

よろしくお願い申し上げます。

3. 宇電懇運営委員会

野辺山宇宙電波観測所ユーザーズミーティングに出席した委員が集まり、6月29日19時30分～21時にかけて会合を持った。委員長が不在であること、事務引き継ぎ関係の整理中であることから委員会でなく懇談会形式とした。話し合えた内容は次のとおりです。

1. 今年度宇電懇シンポジウムについて

今年度開催予定の宇電懇シンポについては、春の学会における宇電懇総会において、「干渉計による天文学」が一つの候補としてあげられていました。運営委員の話し合いの中では、

「干渉計シンポ」は、野辺山ミリ波干渉計のデータが出始めた頃の方が研究会としても実りがあるのではないか、それなら今年度より来年度早い時期が良いのではないかと意見が出された。その他のシンポの可能性について、光の分野も含めた「画像処理」について話し合われた。

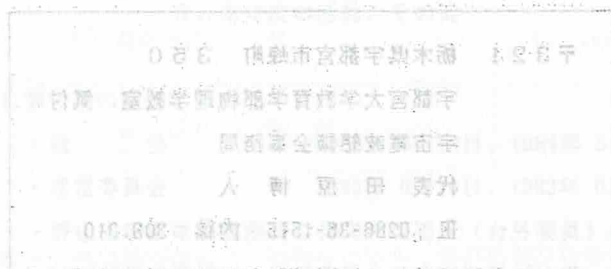
が、野辺山宇宙電波観測所の研究会等もあるため今年度の開催について積極的な意見はでなかった。結局、今年度の宇電懇シンポは見送り、来年度の早い時期に「干渉計シンポ」を開催することで委員長と相談することにした。

なお、委員長と相談の結果今年度は中止することになり、来年度早い時期に干渉計を中心とした宇電懇シンポを開催する方向で準備を進めることになった。

2. 宇電懇の活性化

宇電懇の活動を進めてゆくにあたって、現在柱となる具体的な目標がないため、活動が明確になっていないのではないかと意見がだされた。これに関連して委員の意見交換を行なった。

- ・宇電懇ニュースに、関連研究機関の現状や将来計画、野辺山観測所のホットニュースを載せる、共同利用委員会で話し合われたことを詳しく紹介するなどにより、ニュースの充実をはかる。
 - ・宇電懇と野辺山宇宙電波観測所との位置付けを見直す。とくに宇電懇の立場から野辺山宇宙電波観測所に対して批判や注文をする。
 - ・電波天文一般にかかわることは宇電懇を中心に議論する。
 - ・太陽電波の将来計画が腰くだけになっているが、電波全体の将来計画の検討を進める。
 - ・できるだけ機会をつくり、運営委員会を開く。
- などの意見交換がおこなわれた。



4. 事務局からの連絡

宇電懇ニュースを通して会員の方に知らせたいニュース・連絡などがあれば、ぜひ事務局宛におよせ下さい（住所は末尾）。

会費納入のお願い

会費の納入が徹底していないところもあります。宇電懇の運営に支障をきたさないためにも、1984年度の宇電懇会費納入をお願いいたします。

会費は1年分1000円です、口座は下記のとおりです。

郵便振替口座： 宇都宮-5-1358 宇電懇事務局

会費の納入状況を添付します、まだの方は、前期の分とあわせてお願いします。

会員の数の多い大学、研究機関の会員の方は、なるべくまとめてお願いします。

第8期 宇電懇事務局

〒321 栃木県宇都宮市峰町 350

宇都宮大学教育学部物理学教室 気付

宇宙電波懇談会事務局

代表 田 原 博 人

TEL 0286-36-1515 内線 309.310